

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月22日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3771500521		
法人名	社会福祉法人柘会		
事業所名	グループホームあいむ		
所在地	香川県高松市国分寺町新名520-1 (電話) 087-864-9000		
評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成19年9月27日	評価決定日	平成19年11月22日

## 【情報提供票より】(19年 4月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和 <del>平成</del> 14年 3月 7日
ユニット数	3ユニット 利用定員数計 27人
職員数	22人 常勤 15人、非常勤 7人、常勤換算 19.6人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 2階建ての1階、2階 及び 3階建ての1階部分
------	---------------------------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	約25,000円	その他の経費(月額)	約11,000円	
敷金	有(100,000円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	400円	昼食	500円
	夕食	500円	おやつ	100円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(6月 1日現在)

利用者人数	27名	男性	6名	女性	21名
要介護1	2名	要介護2	9名		
要介護3	6名	要介護4	7名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	57歳	最高	98歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団有史会 高島病院、岩田歯科医院
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

2階建てと3階建ての一部からなる3ユニットのグループホームで、内部は和風の趣きを持つ落ち着いた雰囲気があり、明るくゆったりしている。また、居室は和室やトイレが設置されたタイプや、広さの異なるタイプがある。自然の採光、換気も行き届き、季節の花や緑を取り入れ、快適な生活空間が確保されている。管理者をはじめ、職員全員が入居者のことを第一に考えて、明るくこやかに介護に取り組んでいる。入居者はゆったりと、自分のペースで安定して楽しく生活している様子がうかがえる。介護計画の作成や評価、見直しには職員全員が関わり、日々の様子や気づき、ケアの結果や工夫などを具体的に記録し、共有して、現状に即した計画の作成やケアに活かされている。また、医療連携体制が確保されており、医療機関との密接な連携により、健康管理面などでその機能を活かした支援や、重度化した場合の緊急かつ柔軟な対応がされており、さらに認知症専門医の定期的な訪問等もあり、安心な体制となっている。

重点項目①	<b>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</b> 前回の調査では、入口の施錠について、安全性に配慮しながらも自由な暮らしへの取り組み、及び、地域との交流への積極的な取り組みが期待されていた。評価結果については、いずれもまだ十分な改善には至っていないものの、職員全員で問題点を話し合い、改善に取り組むつつある。施錠については、全面的な開放が困難な状況ではあるが、時間を限って開放するなど、改善への努力が見られ、地域との交流に関しては、運営推進会議等を通じ取り組みまれており、少しずつではあるが、成果をあげている。今後一層の取り組みが期待される。
	<b>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部5)</b> 自己評価の意義や目的を理解し、職員が全員で話し合い、意見を出し合って取り組んでいる。結果については、職員全員に周知し、問題点を話し合い、改善に取り組んでいこうとする姿勢がうかがえる。
重点項目②	<b>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 7)</b> 事業所からの報告とともに、参加メンバーからの質問や意見、要望を受け、話し合いが行われており、助言や意見をサービスの向上に活かしている。また、会議を通じて、住民代表のグループホームについての認識が深まり、そこから交流が始まった事例もみられる。会議への参加を通じて、市担当者との連携も生まれている。
重点項目③	<b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</b> 毎月、個人ごとに日々の暮らしぶりや健康状態、健康管理等について家族報告書を作成し、報告することで家族の安心を得、要望も聴くことができている。家族の面会も多く、面会時に希望を聴くほか、家族会等で意見を聴き、意見箱も設置し、さまざまな意見を出す機会を設けている。それらの意見は、職員全員で受け止め、運営に反映している。
重点項目④	<b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b> 祭りの獅子や太鼓、踊り等、地域の人たちや保育園児等の訪問等が多く、また、地域の祭りなどにも家族とともに参加するなど、地域との交流を持っている。しかし、まだ入居者と地域や地域住民との関わりは薄く、今後、ともに暮らす地域の一員として、地元の活動や住民との交流に、積極的に取り組んでいくことが期待される。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の人権の尊重を第一に掲げ、家庭的な環境で安心と尊厳のある生活支援、個々人に応じた介護プランに基づく生活支援、医療等との連携による健康支援など、事業所としての理念を作りあげている。	○	現在の理念等に加え、さらに、地域との関係性を重視し、地域との交流の下で、地域と支えあうホームとして、具体的なイメージを持った理念を、職員とともに考えつくりあげることが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送り時などに確認しているほか、日々の介護の中で折に触れ、話し合っって理念を共有しており、具体的に「目くばり、気くばり、心くばり」を日々の取り組みの目標として掲げ、職員室に掲示して、日々の実践に向け取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	祭りの獅子や太鼓、踊りなど、地域の人たちや保育園児等の訪問等が多く、また、地域の祭りなどにも家族とともに参加する等、地域との交流を持っている。しかし、地域住民との関わりは薄く、地域活動への参加等の地域との接点を増やしていくことが今後の課題である。	○	共に暮らす地域の一員として、地元の行事や地域活動の情報を集め、参加する等、事業所から地域との関わりを積極的に持つことが期待される。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の意義や目的を理解し、職員全員で取り組んでいる。結果については職員全員に周知し、問題点を話し合い、改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月ごとに開催し、事業所からの報告とともに、参加メンバーからの質問や意見、要望を受け、話し合いが行われており、助言や意見をもらって、サービスの向上に活かしている。また、会議を通じて、住民代表に「事業所や職員の取り組み」についての認識が深まり、そこから交流が始まった事例もみられる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議での意見交換や助言を契機に、できるだけ機会をつくり情報をもらい、サービスの向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、個人ごとに家族報告書を作成し、日々の暮らしぶりや健康状態、健康管理等について家族に報告している。あわせて、金銭管理の報告も行われている。本人の変化や良いエピソードなどもきめ細かく記載され、家族の立場にたった報告がされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会を開催し、意見を聴いている。他にも運営推進会議で家族代表の意見を聴くほか、意見箱を設置し、意見を出す機会を設けており、それらを運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者が、馴染みの職員により安心して支援を受けられるよう配慮して、異動や離職は最小限に抑える努力がされている。法人内の異動により、よりグループホームの職員として、適性のある職員が配置された事例もみられる。異動の場合にも、入居者に影響が少ないよう引継ぎなどで配慮されている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の介護実技等の研修や研修センターの研修に随時参加し、全体会議で報告し、レポートを作成して閲覧している。また、ホーム内で働きながら、管理者による段階に応じた助言や指導が行われており、日々の体験のなかで学ぶ機会が持たれている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会参加の機会を捉え、同業者との情報交換等が図られている。同業者の訪問や後発グループホームから助言を求められる等の交流があり、まだ十分ではないが、同業者との相互訪問等を通じて、サービスの質の向上に向けての取り組み過程にあり、今後が期待される。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族や、できれば本人に何度かホームを見学してもらい、ホームの雰囲気馴染めるよう工夫している。入居当初は本人の不安を除くため、家族の頻繁な訪問など、本人、家族と相談しながら支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の暮らしの中で一緒に作業をしたり、生活の知恵を教えてもらったり、一緒に楽しんだりしている。職員は入居者のパートナーとして、一緒に生活しているという様子がうかがえる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情、行動などから、本人の思いや希望、意向などをくみ取り、記録している。困難な場合は、日々の観察やカンファレンスを行い、意見を出し合って、本人本位に検討している。家族等から情報を得るようにも努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向や家族の希望を聴き、職員の意見や気づきを反映して、個別具体的な介護計画が作成されている。モニタリング、フェイスシート、アセスメント等、独自に工夫を重ね、職員が全員で取り組んでいるため、本人の生活度を把握した上での個別ケアを重視した計画の作成がされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて、職員全員で評価に取り組み、問題点が把握され見直しが行われている。本人の状況に変化が生じた場合は、本人や家族、関係者と話し合い、随時見直しを行い、現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制が確保されており、医療機関との連携が密に取られているため、健康管理面等でその機能を活かした支援や、重度化した場合、可能な限りホームでの生活の継続や、急変時での医療機関との連携など、柔軟な支援が行われている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関以外にも、本人や家族の希望があれば、家族の同伴により、かかりつけ医での受診を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における対応に関する指針」を作成し、入居時に、重度化した場合の対応について話し合いを行い、同意書を作成している。早い段階から、医師、家族との話し合いのもと、全員で方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	呼びかけや入室時の声かけ等によく配慮されており、職員から利用者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損なうような言葉かけや対応はみられない。記録等の取り扱いについても、留意されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな事業所のスケジュールはあるが、それにこだわらず本人のペースで暮らしている。職員のペースではなく、一人ひとりと向かい合って、本人のペースに合わせた支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者と一緒に会話をしながら、献立や味付けの好みを聞いたり、同じ食事を楽しんでいる。献立は栄養士が立てているが、入居者の好みを献立や味付けに取り入れる工夫をしている。入居者はお膳拭きや片付けなど、できることを共にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日に一度、午後の時間帯の中で、本人の希望にあわせ、ゆっくりとしたペースで入浴を楽しめるよう支援されている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の生活歴や能力を活かして、洗濯物たたみ、お膳や台拭き、花の水やり等、家事での役割を發揮できるよう支援がされている。また、カラオケやゲーム、散歩、菜園での収穫等で気晴らしをしたり、趣味の絵、ぬり絵、川柳など、一人ひとりの得意分野や楽しみごとへの支援がされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望に添って、近くの散歩や買物など、外出の機会をもっている。近くのリハビリ施設やケアハウスでの映画鑑賞などに出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の構造上、居間からは玄関の様子が確認しにくく、危険防止のため、家族の要望もあり、玄関のドアが施錠されている。職員の目の届く時間帯に開放する等、少しずつ努力をされているが、日中鍵をかけないケアにはまだ至っていない。	○	危険防止は重要なことであるが、施錠され、外へ出られない状態で暮らすのは不安や閉塞感がある。入居者の立場で考え、出て行く気配を見落とさない見守りや連携プレーの工夫で、入居者の安全面に配慮しつつ、開錠の時間帯を順次増やしていくよう、改善に向け検討されることが望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練や避難訓練を定期的実施し、避難経路や場所に関して、職員間で共有されている。運営推進会議等で、地域の民生委員を通じて、地元の人々に災害時の協力依頼することを考えており、今後期待したい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は、常に把握し、記録しており、一人ひとりの状態や習慣に応じた適切な支援が行われている。栄養士による献立作成により、栄養バランスやカロリーの管理ができており、本人の嚥下能力に応じ、刻み食やおかゆ等に工夫されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間には季節の花を飾り、明るく居心地のよい生活空間となっている。建物の内部は、全体的に和風の落ち着いた雰囲気、居間には畳のコーナーが隣接し、横になる等のくつろげるスペースとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたダンスや机、椅子等の馴染みの家具を持ち込んだり、家族等の写真や花などを飾り、入居者一人ひとりがそれぞれに居心地よく過ごせるような居室となっている。		